

韓国環境部プレスリリース 2019 年 12 月 31 日付

京畿道漣川郡野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 55 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=10&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1162425&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)新西面(シンソミョン)で発見された野生いのしし死体から ASF ウイルスが検出されたと 12 月 31 日明らかにした。

○死体は 12 月 30 日漣川(ヨンチョン)新西面(シンソミョン)の山で環境部捜索チームによって発見された。捜索チームと漣川郡(ヨンチョンゴン)は ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体処理を行った。

○国立環境科学院は 12 月 31 日死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。漣川郡(ヨンチョンゴン)で 19 番目の野生いのしし ASF 確定診断となり、全国的には 55 件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は拡張中である 2 次フェンスの中で発見された。早期にフェンス工事を完了して死体捜索も継続する計画だ"と話した。

以上